

あなたの「こんな地域になりたいな!」を診断してみませんか?



遊びながら地域のことを考えてみてね!!

- サイコロを振って出た目からスタート!
- YES/NOにしたがって進みます。
- なりたいコミュニティが見つかったら、家族や友だちや地域で、「具体的になにがしたいか」や「誰が手伝ってくれそうか」などを話し合ってみませんか?

サイコロを振って出た数字からはじめましょう!



ムラヤー 利活用戦略



公民館に詳しい資料をおいていますよ!

地域コミュニティ(=ムラヤー)が活性化するために何をすべきかの手引きとなるようにまとめました。

自治会の課題

自治会組織が制度疲労をおこしつつあります。

区長や役員に仕事が集中し、忙しくて担い手が減っています。区長任期が短くて、腰をすえた取り組みができていくことも問題です。

地域活動に関心を持つ人はどこ?

あなたは住んでいる自治会のことをよく知っていますか? 関心をなくしていませんか?

自治会の予算が減っています。

人口減少や自治会加入率の低下によって、公民館を運営する財源が少なくなっています。

このままでは、自治会の活動や地域行事ができなくなるかも?!

変わろう!

なにか新しいことをはじめするために、自治会のあり方を見直してみませんか? はじめは小さな改革でもいいです。「オッ、なにか楽しそうだな」と思わせ、関わる人が増えてくると、地域の空気や住民の意識も変わってきます。

集まろう!

公民館に集ってみましょう。子どもたちや高齢者の居場所づくりはどうですか? 若者が減った自治会なら、イベントやコンパなど公民館に集まる機会をつくってみてはどうでしょう。にぎやかな公民館には世間の注目も集まりますよ。

稼いじゃおう!

コミュニティがお金を稼ぐのは誇れること! 農業を6次化してもよし。雇用が生まれる新たな取組をはじめてもよし。地域の課題を解決するために、「xxxをして、年に〇〇万円稼ごう!」というふうに具体的な目標を持ちましょう。

南城市は、がんばる自治会を応援します!

- 地域に寄り添う相談窓口
- 補助金情報の提供
- 区のがんばり情報の発信
- 区業務の引継ぎの支援
- 支援者とのマッチング
- 市業務での連携 などです。
- 魅力的な地域人材の育成

協働プラットフォームで手伝いたいな

地域を支援する人々が集う場をつくりませんか?

シュガーホールの市民ミュージカルのように、幅広い人々がそれぞれの役割を發揮しながら、ひとつの目標に向かって明るく楽しく協働するイメージです。
※エコミュージアム事業とも連携します。

お問い合わせ

南城市 企画部まちづくり推進課

〒901-0695 沖縄県南城市玉城字富里143番地
【TEL】098-948-7110 【FAX】098-852-6004
【MAIL】machi@city.nanjo.okinawa.jp

自治会の皆さまへ

「ムラヤー利活用戦略」は自分たちで自治会のあり方を考えるきっかけです。地域課題の解決や地域資源の活用ヒントとしてぜひ活用してください。

自治会未加入の皆さまへ

自分の地域がもっとよくなればなあと思いませんか? あなたの地域への熱い想いを応援します。自治会とも連携しながら、住みよい地域づくりをはじめましょう。



地域でなにかにチャレンジするとき、 次のことを意識しましょう！

① フラットな関係が基本です。

上下関係のない、意見の言い合える関係性で取り組むことが重要です。女性のリーダーシップもどんどん引き出しましょう。



④ 自分たちで目標やルールを決めよう。

地域みなさんで目標やまもるべきルールを考えましょう。成功事例ではこうしたブレない「地域の哲学」を持っています。目標を明確にしておく、がんばりすぎて燃え尽きてしまうことも防げます。また、うまくいかなかったところを振り返り、修正しながら進めましょう。



■ムラヤー利活用戦略は総論です。各論は自分たちで決めよう！

地域による地域のための「コミュニティ計画」を策定していくことを、来年から市では応援したいと考えています。

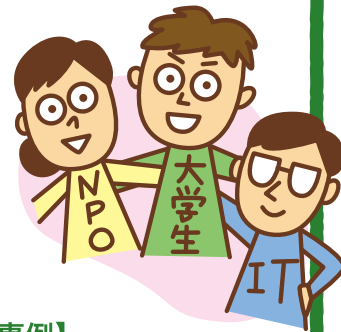
⑤ 行動はすばやく。 鉄は熱いうちに打て！



やると決めたら、目標達成に向けたスケジュールを立て、まわりの人を巻き込んでいく行動を起こしましょう。ビジネスの場面では、意思決定の遅さが命取りになることもあります。

② 来る者拒まず。 むしろ誘っちゃおう。

ノウハウがないとき・人材がいないときには、「よそ者」や「若者」に助けを求めましょう。市では、地域内外のNPOや企業、大学生、IT技術者などが、得意なことをいかして地域に協力する環境を整えていきます。

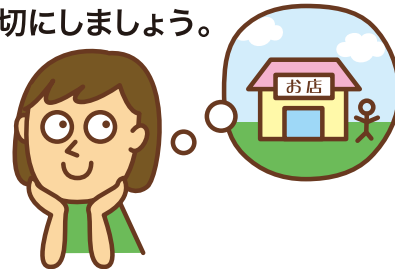


【若者が移住して地域を盛り上げている事例】

岡山県美作市上山地区
棚田の掃除を手伝った都会の若者が、田舎暮らしの魅力にめざめ、何組か移住し、NPOをつくりました。住民もおもしろがってこの取組にのっかって協働するようになり、古民家再生や盆踊りの復活、棚田米のブランド化などを実現しています。注目が集まることで、社会貢献に興味を持つ若者がもっともっと集まるようになっています。

⑥ 遊び心を持って 取り組もう。

多くの人を巻き込んだ取組にするために、「ワクワク」や「楽しみながら」を大切にしましょう。



【住民のノリのよさが売りの事例】

徳島県美波町伊座利地区
漁村留学や「いざりCafe」の運営を行い、人口増加や高齢化率の低下を達成しているところ。全国伊座利化プロジェクトと称し、全国に伊座利人を増殖させています。「田舎deきゃばくら」事業は、都市住民にポジティブなイメージを認知してもらう交流の場です。楽しそうですね(^^)♪

③ 新しいことに取り組む運営体制をつくろう。

新しい取組をはじめるとは、いまの自治会は忙しすぎます。自治会活動とは別に、地域のチャレンジを可能にする体制をつくりましょう。これまで参加できなかった住民にも活躍してもらえるようにしましょう。組織がしっかりしてきたら、NPOなど法人化してもいいと思います。



【若手ががんばっている事例】

親慶原区
青年会OBが中心になって任意組織を自主的に立ち上げ、旧盆行事や夏まつりの運営、独居老人宅の清掃などの活動を行っています。集まる動機は、集まって活動することが楽しいから。30~40人のメンバーが月に1回定例会を開き企画します。必要に応じて自治会役員会でも提言しています。

【複数の自治会が連携した事例】

かみえちご山里ファン倶楽部
新潟県上越市西部の中山間地域で活動するNPO法人です。集落をいくつかまとめた範囲を「クニ(村落集合体)」とし、様々な活性化事業や宿泊施設の運営、人材育成を進めています。わかりやすく例えると、単独ではたちゆかなくなった集落を束ねて、共通するサービスを提供しているイメージです。

⑦ 公的な支援を うまく活用しよう。

取組をはじめるときに、公共の補助事業や助成金を活用しましょう。ただし、事業で得た利益を次の事業に活かして自走するのが基本です。



⑧ 小さなことでも継続しよう。

人にほめられたり新聞に取材されたりなど、「小さな成功体験」を積み重ねて、モチベーションを高めましょう。地道にコツコツと、です。



⑨ お金をもらうことに自信を持とう。

私たちは何のために地域活性化に取り組むのでしょうか？ 地域ににぎわいが戻ってきて「住んでよかった」という気持ちになるため、若い人に孫を連れてUターンしてもらうためです。でも、そのためにはお金も必要です。地域で考えて提供するサービスや商品には、それだけ手間ひまがかかっている、適正な価格設定をしましょう。きちんと儲けることができれば、地域の取組も継続していきます。

【体験学習や農家民宿を受け入れて
経済的に自立している事例】

石川県能登町宮地・鮭尾地区
地域で「春蘭の里実行委員会」をつくって、里山の暮らしを体験できる農家民宿に取り組み、多くの修学旅行や観光客を受け入れています。平均月収が20万円で、なんと40万円の目標を達成する民宿もあります。農家民宿が、専業としても魅力的な収益産業となったため、若者の定住が増えて限界集落の状況を脱したそうです。

